一、拜借不仕面々茂、前紙御頭書之通得其意、萬事致簡略、并拜借仕候者之方に參、振舞等に逢不申樣に可被申渡事。右被仰出之趣被得其意、急度組中に可被相觸者也。

辰九月廿七日

長　九郎左衞門
今　枝　民　部
小　幡　宮　內
奥　村　河　內
奥　村　因　幡
前　田　對　馬
横　山　左　衞　門
本　多　安　房

四　拜借仕面々儉約之儀觸

覺

一、拜借仕面々、返上不相濟內、隨分勝手を詰、聊費仕間敷候。人々之爲を被思召、加樣に重々御用捨、利なしに御貸被成候處、以來勝手方むさと仕なし候はゞ可爲曲言之間、組頭吟味之上可有言上事。

一、除知分其年之直段を以拂、代銀賣上之切手相添、不殘可上之。米直段依高下、御定之年數のびちゞみ不苦事。

一、返上滯者之儀は、除知分不殘御代官付可被仰付事。

一、脇借銀合力仕間敷候。若不叶儀候はゞ、組頭を以寄合迄相斷、可受差圖事。

一、修理之外、いか樣之儀に而茂家作事仕間敷候。但、新屋敷拜領仕者は、組頭迄相斷、成程輕く小屋懸可仕事。

一、諸勸進に入申間敷事。

一、不入物を買、榮耀道具拵、其外不依何費成儀仕間敷事。

一、押懸にて茂、振舞一圓仕間敷事。但、他國客等振舞候はで不叶儀候はゞ、組頭迄相斷可受差圖事。

一、嫁娶其外急度仕たる祝儀等有之刻は、一門中計御定之通輕料理仕、祝可申事。

一、互之音信或路次送迎等之音信無用之事。

一、立御耳鷹所持之御赦免之外、所持仕間敷事。

一、衣類之儀、御定之通に而も造作成仕樣有之躰候。惣而衣類等不入費、心得惡敷被思召候間、向後成程麁相に可仕事。

一、面々勝手方一年切に、買懸等仕拂之樣子書付調、組頭まで可上置事。

右條々拜借仕面々に、其組頭より向後違背不仕樣に堅く申渡、御請可取置旨被仰出者也。

二月六日

長　九郎左衞門
今　枝　民　部
奥　村　因　幡
奥　村　河　內
前　田　對　馬
横　山　左　衞　門
本　多　安　房

五　勝手不如意之者に貸銀之儀被仰出

覺

一、組中之儀に付、勝手等之樣子尋之候處、帳面相調差越、逐一令披見候。先達而如爲申聞候、近年度々加助成候處、其筋目を不存辨欤、過半は無故勝手仕失、存之外身躰不相應之借銀之者多候段、沙汰之限に候。尤當時放埒成覺悟之者、餘多有之躰候得ば、此等之族は何分に加助成候共、身躰可相成樣に不存候得ども、其分に打捨置候ては彌以困窮、殊更風俗を可亂と難默止、此度は令助成事。

一、借銀・買懸入用銀又は賴母子銀、彼是金銀高、知行百石に付一貫目以上五貫目に至迄は、無利に銀子貸渡、以其相應知行之內除知仕置、勝手仕直候樣可申付。同五百目以下は、急度令簡略返辨候之樣可申談事。

一、知行高百石に付、五貫二百五十目より六貫二百五十目迄も、各其銀高之半分貸渡、身代過分之除知可申付。勿論其間は供・使役儀等可宥免候。又百石に付六貫五百目以上は不及貸銀、或過半除知、或知行取放、急度可令辨濟。知行取放輩は、應其身以知行之內可當扶持方。此等は供・使・勤番に至迄赦之、專可令簡略事。

附、當年江戸供之面々用意銀は、右銀高之外たるべき事。

一、頭并定置諸奉行・諸役人其外小姓等に、百石に五貫目以上之借銀高に候共可貸渡候。但、十五年を限令上納、勝手難續者は其趣可相窺事。